市民の声

市当局や議会、または個人同士の攻撃にならぬご意見をおよせ下さい。

締切り＝毎月二十日
宛先き＝市役所内広報係

私の気づいたこと

去る十二月十七日のことである。ある用件にて市役所総務課を訪ねた。広い事務室には三、四十人位の机椅子が準備されてある。

両し事務を執つているものは僅かに六、七名、後は全部空席である。「Tさんはいませんかと尋ねると、さあーと云う返事。Nさんはと聴けば、どこえ行つたのだろうと云う。取り着くしまがない

已むを得ず隣の室にて用件をずませ色々話している内、総務課の面々は議会準備の為、稲吉屋という旅館で仕事をしていると云うことがわかつた。同室の者の不親切なそして正直でないのが不愉快で仕方がない、舌腹だたしくさえ思つた。

それから三、四日して又、出掛ければ過日と同様留守である。

ここで考えてみたいことは役所と云う所は、議会準備は勿論のこと、住民福祉増進の為あらゆる事務を司べき場であると思う　然るに其の場を離れて他所で大勢の者が事務をするとは、不都合至極である。

それには色々事情理由もあると思うけれども、それは理由には決してならない。何故ならば、役所はそういう事務を執るが為に設置してあるからである。

旅館の幾室かを使用するに当つて、之は無料で使用が出来るかと云うことである。例え無料であるとすれば、旅館主の迷惑は、このうもないことであり、有料とすればこれこそ無駄な費用であつて我々住民として見逃すことは出来ない。

小額とは云え我々も納税義務者の一人である。その血税の一部を以て支払はれると思ふとこの様な暗費は大いに節約して貰はなければならない。

旅館で事務を執ると云うことは、自己の利便を計ると云うこと以外ならないのである。

どうか将来は住民を犠牲にする様な費用は、全体に慎んで下さい。

十二月の広報もみてもらい市長にもつとしっかりしてもらいたい。（一市民）

国府川改修と井堰の統合

穴内川ダム建設に伴ひ国府川の改修が促進せられる様になつた事は、吾々五〇〇年の非願が実現することであり誠に喜びにたへない。

この際国府川治水の根本対策を立て、永久に水禍より子孫を護ることは現在生を受けたものゝ責任ではなかろうか。

その第一にあまりにも多い井堰について考へてみたい。

天正地検帳によつても明らかなる如く、国府川の南北両岸共に古くから開田耕作せられていたが、奥の浅い鉄砲堰特有の著しき旱魃に悩まされ、止むを得ず井堰を多数構築、度々の出水に壊れては直し、壊れては直しの苦しい賦役と出費にをのゝき又井堰の為流通不良、溢水も天命とあきらめざるを得なかつたのでしようしかるに約六十年前新改発電所の完成により水量は増加、状況は一変し井堰の必要は半減したが、施設変更の運びに至らず、大正十四年の秋、光滝堰の上流部に於て堤防決壊、大水害により幾多の尊い人命を失ひ膨地流失の被害を受けたのであります。

今回穴内川ダム建設予定による著しき放水量の増加は益々井堰の必要を認めず、逆流、溢水の危険を増加する事は何人も承知するところです。

この際こそ井堰を撤廃し、水位を下げる事により堤防を相当かさ上げしたと同様の効果があり、野水の排水を計り農民を井堰の維持管理費の負担より開放できるのです。

灌漑用水は最少限の合同堰より前世紀の遺物の如き水路をコンクリート巻による近代的なものとすることにより、水量の増加、溢水被害の防止、分水の合理化、常水も確保、あはせて水源問題も解決すると確信するものであります。

（国府川改修促進協議会長野利行）

成人になつて

一九六〇年の一月十五日は記念すべき日である。二十才になつた私達には、今までもつていた二十才の感しが成人式と云う一つの場をもつて社会的に公認されたと言う何とも言い表わすすべの出来ない嬉しさがこみ上げてくる。それと同時に社会的な権利、義務とを確認しなければいけないと思う重圧感もある。

今私は周囲を見て成人と言うものが存在していそだろうかと疑問に思う。年をとつて俺は貴ろくなんかよりも世の中を知つている金もあるんだ。権力も握つているのだと言う傲慢さに充ちた指導者がいる。そして左の人は社会の本質的な発展の為に必要な人民の要求反映と言うものを無視して、現在どれと結託したら営利上都合がいゝのかと算用して一部の権力（価値なき）と組んで、ボス支配の強化に走くり廻つている。私は成人になつたと言うこの契機をとらえて、これからの社会の為に成人した六〇〇余名の同志と多数にのぼる青年仲間と手をとり合つて、われわれ青年が夢をもてる南国市、社会の実現につくしていきたく思います。

（三和・浜田勉）

知事賞追加

前号の「市第一産業祭の入賞者氏名」から知事賞を得た西野々、中沢益次さんが落ちていたので追加する。

主張　広報というもの

市当局にしても、市民の希望（たとえ小さいものでも）を知るうえに広報の〝市民の声〟にまさるものはない筈だし、聞くべきことは聞いて方法をたてる雅量をより大きく持たなくてはならない。

ものごとに理想的にまとまつたものはまずない。

欠点とか、あるレベルに達しないことはあり勝ちだから、市政に対しての〝声〟があるのは当然だ。

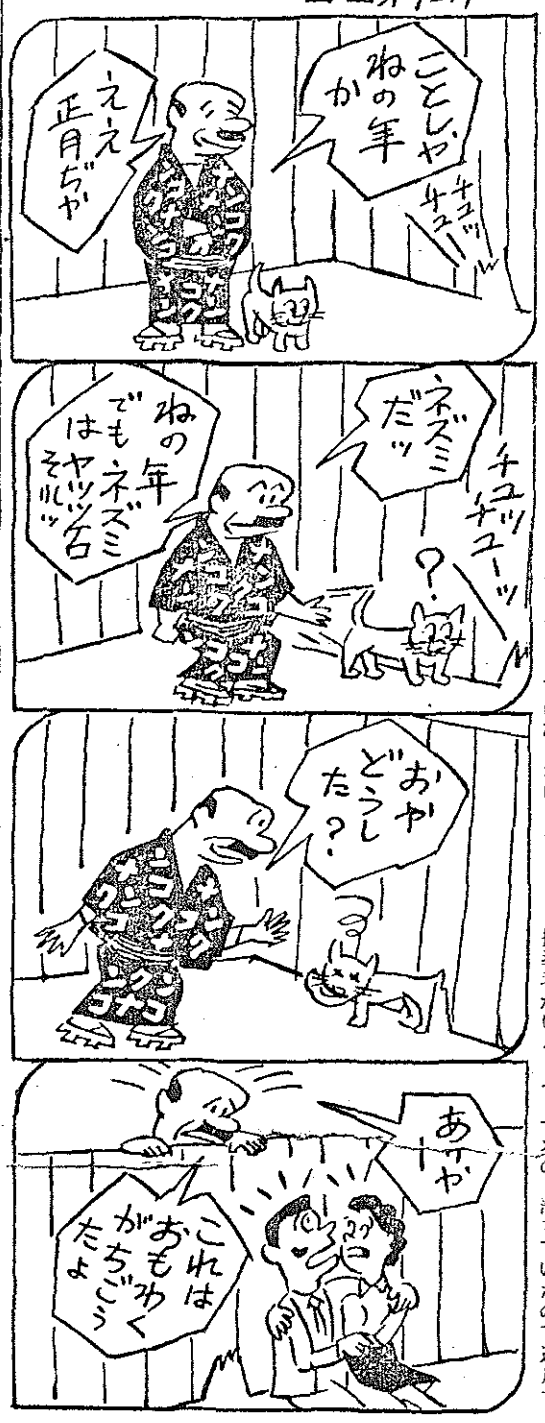
理由は誕生直後であることや、これに伴うて目の届かないという理由もあろう。たとえば後者のような場合に触れてみる。いまはどうか、執務時間中の職員組合幹部の会議開催は普通に考えると許されないことだ。市当局がこれを認めているとすれば、いささかなさけ厚きにすぎようし、職組が職場を離れる許可も受けず当然視してやつているなら市民へすまないことだ。

万全を期することはできなくても強固な指揮監督、労務管理が行なわれておれば苦言のある間は欠点がある。

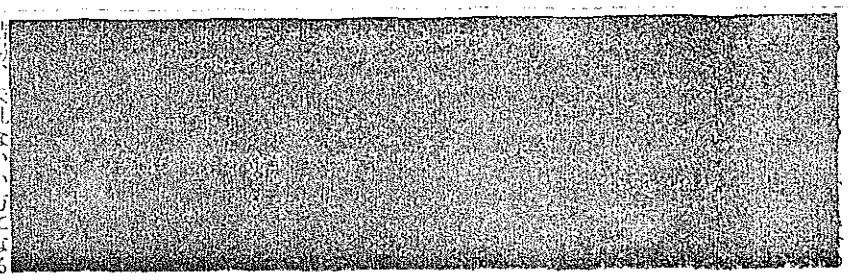
のだ。広報は市役所や議会の〝お知らせ〟式の出版物であつてはならない。お知らせの一方、市役所や市民は広報の〝場〟で意見をのべあうことにして、よりよき南国市を築くようにしなくてはならない。

ナンコク氏

百田利明



庁内人事に思う



庁内人事は市役所内外の各階層から非難されている。

似たり寄ったりで、その能力に差はあまりないはず。だとすれば、職員の士気を高め能率の向上をはかるため、これらの起用には一定の基準を設けておくべきだ。たとえば課長クラスは勤続十二年以上、課長補佐は同十年以上、係長は七年以上というように――。

こんどのように、中卒の者が勤続三年足らずで課長補佐になることはどこの世界にもない。

（市政同変の士）

日を追うてよくなる

……（係から）……

このところ市役所に対する投書が非常に多い。ここに掲載したのはその一部である。

そのほとんどが、庁内の気分引き締めと、職員すべてがより公僕精神に徹するよう求めている。

二カ月にわたつて格付人事がなかつたため、〝私の気づいたこと〟にみるような事実のあつたことは否定できぬが、いまは勤務ぶりも改善されてきた。

この上は、市役所上層部の適切な人事管理にまつべきで、旅館会議も新庁舎建設が実現して、〝場〟を得ることになれば少くなろう。

ただし、市当局としてもこの際〝旅館会議〟を極力避ける方法をおるそかにしてはなるまい。

保健所へ

保健所はもう少し公衆浴場や食品販売業者の指導に乗り出してもらいたい。

全くこうした方面は放任しすぎている。市内の公衆浴場は夜おそくゆくと脱衣場は足の踏み入れもできないほど、綿ボコリが積んでいることが多い。

またパンや生菓子のおろし屋が、よごれた手で、ホコリのついた蓋の上に数えて置き、それをワシつかみにして陳列に入れているが、これは怪しからぬ。その所もう少し清潔にするよう心がけてもらいたいことだし根本的な対策は保健所係員が実態を調査してやつてもらいたい。

こうした衛生行政は警察の手を離れて、保健所に移つてから悪くなつたようにみられるがヒガメというものか。

（市内・一老人）

教育正常化は夢か否か

浜田春水

南国市暫定教委を最後に過去八年間の思出に触れてみたい。多くの教育課題を眼前にしながら、端的にいえば非武装革命と接戦の明け暮れではなかつたのか。明治時代、日本の国土に埋められたサンヂカリズムの種子が、終戦後に法の陽光を得て芽を切つたとみるのは誤りだとも思えない。

教育界においては、教師の倫理綱領にその基本精神が布石された。そして教組活動の拠点となす労働者意識を中軸となし、過去相次で点火された闘争問題やその展開ぶりといい、時には他の組織団との連繋活動などには一目したイズムありと感受されたからだ。

教職にある限りは、かくと知るも知らぬも時潮の声に身を委かせて、否応なく乗込んだ教組丸ではないか。脇見する意見も自由も許されよう筈もない。船はイズムの目指す取舵にばかり運ばれていく。共産主義や無政府主義の示唆に立つサンジカリズムではないか。理論は無用、激しい直接行動が唯一の戦法だ。鉄鎖の団結！闘志の昂揚！闘い取る！この三つが活動の基調でもある。

華々しいリズム展開に当面する教委にとつては、〝話せばわかる〟ではなくて世間躍れのした様態の話合い即相遇戦であつた。サンドルセ理論の示唆か）、ルトルのいわゆる結体理論がその鬼の手と受取つた。怖るべき戦術を何処で誰れから修得したのか。交渉委員ならぬ闘争委員の旗影が靡いている。代表者の後には多勢の人影がひしめき動く。そして〝要求の前に屈服せよ!!〟これでもか、これでもか、がこの革命型でもある。教育ゼネストはそ天下り指導行政の重責、教育の教組的自治化を想わすが、金画、下からの盛場りの叫びや民主教育を守るなどの声の裏には、アナーキズムの弊があると同時に、一意雑音混乱に対する思想ビケであり、団結の線に突破口を与えないのがその狙いでもある。教育ゼネストはそ撞うたトンネル進行さながらと感ぜられた。たゞ教組が異色となす所は、政治闘争に手を伸ばしている点がサンジカリズムの型破りともいえようか。

ここに要約して述べてみたい。イズムは牙城を陥れるまでは次々と闘い取るのだ。その仕方でありまた信条でもある。現下の勤評問題が何とか片付いたとしても教組が、現在の倫理綱領の清浄に腰をおろしている限り、今まで相次いであつたように、今後も闘争の種はつきることはあるまい。かかるような革命型展開の途上においては教育正常化を夢みるのはその意義が怪まれる。郷土の子弟教育が、教組的サンヂカリズムの歯車の中を、むしられながら繰出されていつてよいとは所詮考えられまい。これは勤評の是非問題とは比べものにならない重大な関心事ではあるまいか。

こうすれば盗難は防げる

帰る時刻、その他必要なことをよく頼んでおくように。

戸締りは厳重にする。また、家を留守にする時は、なるべく留守番を置く。やむをえず一家揃つて外出する時は戸締りを厳重にし、必ず隣りへ行き先や住所を書き置くようにしよう。

また、自転車の車籍登録をまだ済ませていない方は、いますぐ、もよりの自転車店で登録を受けて下さい。

自転車の置き放しは盗んで行けと言うのと同じです。必要でないときや、用件で道ばたへ置くときは、必ずカギをかけ、自分の目のとどくところに置くように注意しましよう。

禁物です。

また、自転車の乗捨ては禁物です。